



特定非営利活動法人 なんとなくの にわ 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

居場所のひとこま ～「新しい門出を祝う会」 を行いました～

なんとなくの にわに係わった子ども達5名がこの春、小学校入学、高校進学、就職をそれぞれ迎えることになり、ささやかですがお祝いの会を開きました。

当日は本人が一言ずつ話した後、ケーキとジュースで乾杯し、花束と色紙のプレゼントがありました。あるスタッフが用意した図書カード争奪あみだくじがもり上がったり、外に遊びに出たグループではけんかが始まったり、トランプで遊んでいる人達となりでまじめに次のイベントの計画をする人達が集まるというような、とてもなにわらしい時間が流れていました。

いつもは静かで落ち着いた雰囲気居場所もこのときは総勢15名が集まりましたので、久しぶりににぎやかで楽しい声が行き交いました。

この日は、一時自分の居場所を見失って元気がなかった子ども達が、エネルギーを貯めて自分の力で立ち上がって歩き出す姿をみるという、大人たちの至福のときでもありました。

今、進学から2ヶ月が過ぎようとし



ていますが、「がっこうはたのしい、みんなにおいわいしてもらってうれしかった」というコメントや部活が楽しい、友達ができた、就職組はバイクの免許を取ったなどの情報もはいつています。これからもそれぞれのペースで歩く彼らと共にある「なんとなくの にわ」でありたいです。(N)

講演会「不登校・引きこもり・未来」 ～ 当事者からのメッセージ ～

2009年7月11日(土) 午後2時～午後4時

「不登校・引きこもり」という現象をつうじて、子どもたちの心が感じていること、訴えていることを考えるための、「なににわ」主催の講演会です。

会場：日光市今市中央公民館中ホール

参加費：500円（高校生まで無料）

須永祐慈（すながゆうじ 1979年生まれ）

学校法人東京シューレ学園東京シューレ葛飾中学校理事、有限会社東京シューレ出版（編集担当）

小学校4年からいじめを理由に不登校。2年半の閉じこもりの後、91年から98年までフリースクール「東京シューレ」へ。不登校や教育問題、現地調査を交えた世界のオルタナティブスクールの研究を行う。

沼尾忠宏（ぬまおただひろ 1984年生まれ）

NPO法人なんとなくの にわ理事、文星芸術大在学中 不登校・ひきこもりの体験漫画にあわせて、三味線演奏や「不登校」をテーマにした歌をうたう。不登校からうまれた新しい演奏方法と、漫画と音楽で、引きこもっているひとり一人に、いろいろな可能性があるということを示す活動を行っている。

目次

居場所のひとこま「新しい門出を祝う会」	1
第5回 通常総会より	2
子育て・親育ち勉強会・4より	2
活動日誌	3
サイエンス・カフェ 21	3
こんな本はいかが？（7）	4



第5回 通常総会のご報告・「なんにわ」の予算をお知らせします

昨年度は活動の幅が広がり、関わる人たちが増えてきた1年でした。新しい芽を根付かせ、充実させるのが今年度の活動ではないかと私たちは考えています。

いままで、総会議案書等をお届けするのみで、あまり「なんにわ」の活動予算についての説明を通信に掲載することはありませんでした。会員の皆さまからいただいた貴重な会費等が、どのように使われているか、関心を持っていただくためにも、あらためて今年度予算を紹介します。「なんにわ」活動予算は総額234万円、以下のように分類されています。

- 居場所の運営 (93万円)
スタッフの手当、図書費など
- 学習内容の開発 (31万円)
旅費、資料代、サイエンスカフェ等の消耗品代
- インターネット事業 (60万円)
ホームページ管理スタッフの手当、業者委託料
- 相談・情報提供 (28万円)
講演会、勉強会、通信発行などに関わる経費
- その他 (5万円)
若者の居場所、自然体験

■ 管理費・予備費 (17万円)

事務局運営に関わる経費

この活動を支えるために、大きく分けて3つの収入があります。まず、「不登校の子ども居場所」運営を支えるための日光市からの補助金70万円。日光市教育委員会および市内の小中学校と連携を取りながら、よりよい「居場所」を作り上げていこうと、スタッフ一同、頑張っています。インターネット事業は昨年度より、日光市子育て支援課の「子育て提供事業」からの委託金50万円を受け、従来のホームページを拡張する形で開始しました。「受け取って良かった」と言われる情報を伝えるために、管理スタッフは調査研究を重ねています。

以上の2点に加え、35万円の会費収入、28万円の事業収入、10万円の寄付金を予定しています。これに昨年度からの繰越金41万円を合わせたお金が予算となり、今後の活動が行われます。事業収入は「居場所」および「学びサポート」の利用料です。利用料のみでの運営は困難で、会費および補助金等が大きな支えになっています。今後も私たちの活動に、積極的なご支援をよろしく願いいたします。(手塚)

子育て・親育ち勉強会 第4弾 「うちの子、ちょっと心配？」と思ったら

3月14日(土)午後に関われた、勉強会(講師:帷子頭二郎さん 日光市教育委員会 発達相談員、臨床心理士)に参加された保護者の方へのアンケート結果です。12名の方から回答をいただきました。

1. 勉強会を何で知ったか 知人・友人:4名 チラシ:8名 新聞:なし

2. 印象に残った点や感想など

中学生になってからの対応について■効果的な注意の仕方など、5年生なので先々の話をしてくれたのでよかった■注意を言っても聞かないときに、折れてしまわない事が大事。無意識にあれこれ手を出してしまっているの、まずは手を出さずに見守る事から始めたい■わかっていても怒ってしまうため効果的な注意の仕方について再確認できた。学校によっては・・・という話が少し不安になった■「おかしいな？」と思ったら、学校内や親御さんの理解を得るために、その子が家・地域・学校で様子が違う事を分かってもらう事が重要だとわかった。ただ話し方をよくよく考えなくては(教員)■学校側も家庭側もみているものが違うという自覚を持ち、互いを受け取りあい支えあえば、子どもはもっともっと成長できると改めて感じた。帷子先生にはこれからもその掛け橋をしていただきたいと思う■普段お世話になっている帷子先生が保護者に対してどういう話をしているのかを聞くことができてよかった。こういう場にもっと参加する人が増えてほしい(教員)■最近、学校での様子と家庭での様子がかかなり違っていたので心配していたが、それが当たり前ということで安心した■現在小学1年生ですが、今後の支援に役に立つ話でした■子どもをよく見守る・褒めることの大切さ、対応のしっかりした方針・気持ちの大切さを感じた

3. 今後、勉強会でどのような話を聞きたいか

いろいろな子の事例など具体的なケースをふまえた話■実際の相談の事例や対症法など■医師の診断とは...そちらの話も聞けるとよい■学校の先生方に、幼から小に上がるとき、小から中に上がるときの指導のポイントを教えていただきたい。中学校は小学校での積み重ねを否定しがち

4. 情報交換の場がほしいと思うか ほしい:9名 思わない:1名 無回答:2名

- ①どんな集まりの場か(複数回答) 情報交換の場:10名/仲間(友達)づくりの場:5名/悩みを解決する場:4名
愚痴を言える場:2名/話を聞いてもらう場:3名/リフレッシュする場:2名/楽しく過ごせる場:1名
- ②どのくらいの間隔で 3ヶ月に一度:2名/2ヶ月に一度:1名/1ヶ月に一度:5名/2週に一度:1名
- ③集まりやすい曜日や時間帯は 平日:6名/土曜日:1名/午前:3名/夜:4名
- ④何かご意見を

平日昼間の集まり/仲間づくり、愚痴を言う場/家族の土・日の集まり/理解できる者同士での楽しみ会

アンケート結果をふまえ「子育て・親育ちのお茶会」を報徳振興会館で開くことになりました(詳しくは右ページ上をご覧ください)

発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いています。どなたでも参加自由の会です。気軽にご参加ください。(担当:西尾・白井) 連絡:市民活動支援センター 0288-22-2271

「子育て・親育ちのお茶会」を開きます。

場所:今市報徳振興会館

日時:毎月第2月曜日(午前10時~お昼)

参加費:300円(お茶代)

次回は6月8日(月)です。

詳しくは電話でお問い合わせください。



「子育て・親育ち勉強会」に参加した皆さんから要望の多かった、気になるお子さんをお持ちの親御さんが気軽に集まり、お茶を飲みながら、情報交換をする…そんな茶話会を企画しました。

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に…

☆ 活動日誌

- 2月28日(土)「日光学まつり」(市教委主催)に参加
- 2月28日(土)サイエンス・カフェ20「素粒子って何だろう」
- 3月7日(土)理事会(第26回)
- 3月14日(土)子育て・親育ち勉強会・4
「うちの子、ちょっと心配?」と思ったら
- 3月21日(土)経済同友会活動報告会で発表(手塚)
- 3月23日(月)発達障がい支援者連絡会(第36回)
- 3月27日(金)「新しい門出を祝う会」
- 3月29日(日)ベリー会(吉成啓子、勇一)
- 4月25日(土)ワカモノフェスタ実行委員会(加藤、吉成)
- 4月26日(日)ベリー会(吉成啓子、勇一)
- 4月27日(月)発達障がい支援者連絡会(第37回)
- 5月3日(日)猪倉山 泉福寺・八十八カ所まつり・バザーに参加
- 5月3日(日)埼玉けやきの会で「しゃみまんがライブ」(沼尾)
- 5月9日(土)理事会(第27回) 第5回通常総会
- 5月23日(土)サイエンス・カフェ21「川むしたんけん隊」
- 5月23日(土)ワカモノフェスタ実行委員会(加藤、吉成)
- 5月29日(金)ノア佐藤さんと食事会(ネット関連情報交換会)



お知らせ! 「なんにわ」連絡用の電話番号が変更になりました

子どもの居場所、子育て相談等、「なんにわ」へのお問い合わせ先

090-3227-7079



サイエンス・カフェ21 川むしたんけん隊

協力:今市の水を守る市民の会(講師:塚崎庸子さん)

以下、塚崎さんによる報告

「水の会・だいや川通信」第27号より転載いたしました。



オオヤマカワゲラ

東武日光線 明神駅から長畑方面に坂を下ると行川(なめがわ)が流れています。そこから上流に向かって二つ目の橋が中井橋です。5月23日(土)、その中井橋で行われた《NPO法人なんとなくのにわ》の「川むしたんけん隊」に協力しました。

大人、子ども総勢25名が参加した会は、のびのびと賑やかな時間を過ごすことができました。昨年5月は雨で中止、10月は少人数での実施になってしまいましたが、今年は天候に恵まれ、水温18度(気温24度)水量もほどほどで、絶好の活動日となりました。今回、特に注目したのは見つけた生き物の種類がたいへん多かったことです。参加者が多くと探せる数も格段に増えていきます。ヤマトシジミ、オオヤマカワゲラ(幼虫)、コヤマトンボ(幼虫)、サワガニが今回初めて見つかりました。

2年前もお子さんと一緒に参加してくれたお母さんが、「川に入るのは家族だけだとどうしても狭い範囲になり、子どもも我がままを言ったりするが、大勢の仲間と一緒にだと安心し、皆の真似をしているうちに虫を手で触れるようになった。親も子どもののびのびできる。大勢で体験したことはきっといつまでも心に残っていくはずで、一つでも多くこのような体験をさせてあげたい」と言っていたのは私たちスタッフにとってたいへん嬉しいことでした。こんな身近なところでたくさんの生き物と出会えるのです。次回は小学校3、4年生にもぜひ参加して欲しいと思っています。中井橋でまた会いましょう。

指標生物の集計

下記に通り、中井橋周辺はきれいな水質とわかりました。

きれいな水に棲む生き物 : オオヤマカワゲラ・サワガニ・ヒラタカゲロウ・ヘビトンボ

少しきたない水 // : カワニナ・コオニヤンマ・ヤマトシジミ きたない水 // : ヒル

ほかに、カクツツトビケラ・ヒゲナガカワトビケラ、チラカゲロウ・マダラカゲロウ・シロタニガワカゲロウ、サナエトンボ(ヤゴ)・コヤマトンボ(//)・ルリボシヤンマ(//)・ハグロトンボ(//)・オニヤンマ(//)、カワトンボ(ヤゴ、成虫)、モノアラ貝、ドジョウ・シマドジョウ・ホトケドジョウ、オタマジャクシ(ニホンアカガエル)、アブラハヤ、ウグイ、コカナダモ。19種類の生き物が見つかりました。

(今市の水を守る市民の会 塚崎庸子)

サイエンス・カフェ<これからの予定>

#22「イモリのふしぎをさぐる」 県立博物館移動講座 講師:林光武さん(栃木県立博物館)

7月18日(土) 午後2時より 日光市民活動支援センター 生きたイモリが観察できます!

#23「お寺で宇宙談義2」(猪倉山泉福寺にて、8月下旬開催予定)

〒 321-1261 日光市今市 378
電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631
E-mail: info@nantonakuno.net
ホームページもご覧ください
<http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？

その7 「罪と罰」

山田 清一



ロシア文学上では最も題名だけは知られている作品だと思います。著者のドストエフスキーの代表的な作品ですから。ただし実際に熟読をして「彼の作品にのめり込んでしまった」という人はあまりいないようですが。私が初めて通読したときが17歳。以後今に至るまでに10回では足りないくらいに読んでいます。最も好きな作品です。この作品が取っ付き難いには「登場人物の名前が覚えにくいから」という人が圧倒的に多い。不思議と私は気にならなかったけれど、私のような例は希みたいです。

私がこの作品にのめり込んでしまった理由のひとつは、展開の数奇さです。読み返していると、数奇さの重点が替わって来ていることに気が付きました。主人公のラスコーリニコフが金貸しの婆さんを斧で殺す、その部分が出だしなので、なんだ殺人モノか、と不満に思いながら読んでいました。17歳のときにはこの本しか所持していなかったのに、嫌々ながら通読をして、それまでの通俗作品と同じく「つまらないな」という読後感でした。しかし同じ年齢のときに2～3度繰り返して読んでいたうちに、漠然と「殺人ものではないぞ、恋愛がメインテーマかもしれない」との感想を抱いた。しかしその後、10年ほどの間は“罪と罰”に触れる機会がありませんでした。ある時、友人と雑談をしていた時にこの作品について、口角泡を飛ばして、喧々諤々と熱っぽく語っている自分がいました。この時には自分でも驚きました。「君はロシア語の原文で読むことが出来るけれど、僕は翻訳されたものしか読むことが出来ないんだ。でも今読んでるのは、どこかおかしい訳文なんだ。僕は日本語自体が苦手なので強くはいえないけれど、江川卓さんの訳文はとでも日本語とはいえたものでは無いよ。米川正男さんの訳文は難しいけれども内容的には納得できるね」友人が「原卓也は僕の担当教授だったけれど、僕も日本語の正しい文章を書く事が苦手だったよ、彼って露文学者でも翻訳は下手だね」そんなことを話していたら、再読してみよう！となって現在の私が有ります。

圧巻にして不思議なのがラスコーリニコフにとってのソーニャです。公認の売春婦であり、多くの男たちの慰み者で在ったのに、あくまでも自身のことより、世間で悪人扱いをされる人達を優先的に好んで世話をしていた。その例に漏れず、ラスコーリニコフの独白に聴き入って、彼の殺人事件を、自白させてしまう。果たして何が彼をそのことに触れさせたのか？それまでは「絶対に吐かずにおく。あの強欲婆が悪いからぶっ殺されて当然さ」と頑な決意でいたのに。これって彼女への恋心ではあり得ない、ソーニャが彼の独白を聴きいってくれたからか？

それも違う。昨年になってやっと、彼にとって彼女は[救世主]だったからだ、と合点が得られた。まだまだ謎の多い愛読書ですが、それ故にきっと私は“罪と罰”を生涯の愛読書としていられるのだろうと、つくづく感心します。
(カットは手塚治虫「罪と罰」より)

私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

会員について

正会員：45、賛助会員：18

団体会員：3 入会金はありません。

年会費(一口)：正会員3,000円

賛助会員 個人5,000円、団体10,000円

「なんとなく」活動の約3割は会費でまかなわれています。会員の継続をよろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いします。

なんとなくのへや

第5回目の総会を終えてやれやれという気分でしたら、5月中に予定していた第16号の発行がだいぶ遅れてしまいました。なんとか発行できたのは、原稿を寄せてくださったみなさんのおかげです●5月末に、ホームページ関連の仕事をしているメンバーと、ネット関連の技術者さんとで食事会をしました。そこで“Moodle”という「インターネット利用の学び」をサポートするフリーソフトが話題になりました。「他の人のために何かを構築するという経験が、効果的な学習である」という哲学で開発されているシステムで、大学などで研究・応用が始まっているそうです●これって、「現場で学ぶ」という考え方のネット版なのかも。ちょっと興味をひかれる動きです。(T)